

OS09-5 「死の谷」を乗り越える橋：大阪大学創薬推進研究拠点の取り組み

○宇野 公之¹

¹ 阪大院薬

ライフサイエンス分野の研究開発力を背景として、我が国では大学等の研究機関から多彩な創薬シーズが創出されているものの、医薬品として結実した例はきわめて少ない。一方、いわゆる 2010 年問題が示すように、製薬企業では企業内で創薬シーズを見いだすことが困難になってきており、大学が所有する創薬シーズに対する期待は大きくなっている。しかしながら、基礎研究に留まる大学発の創薬シーズを製薬企業が取り上げて医薬品開発へとつなげるのは非常に困難であり、両者の間に横たわる「死の谷」を乗り越えられないままなのが現状である。大阪大学拠点は、化合物ライブラリーを活用した多検体スクリーニングが可能な機器を整備し、関西地域の創薬研究者が広汎に利用できるための支援体制を構築することで「死の谷」を乗り越える橋となり、アカデミア発の医薬品の創出に貢献したいと考えている。また、大阪大学の多彩な教育・研究基盤を活用し、将来の創薬研究を担う優秀な人材の継続的な育成を図るべく活動を続けている。事業を推進するための全学的な組織として、医・薬・理・工等の研究科だけでなく、産研・微研・蛋白研や産学連携本部の教員も参画する「創薬推進研究拠点形成WG」を立ち上げ、拠点事業説明会や創薬研究の推進に関するワークショップの開催により拠点の取組みや研究成果の情報発信を行うとともに、相談窓口、測定支援、拠点広報、教育企画の担当者を決め、創薬という出口を見据えたスクリーニングに関する支援体制を整備している。本講演では、大阪大学拠点の取組みに加え、これまでに得られた創薬シーズの創出にかかる研究成果についてもふれたい。